

アメリカと日本の違いは…？ from 川村先生

このインタビュー企画は、
チームWADA学生部の田中委員長の記事を偶然見かけた
ひよっこ of ひよっこ医学生の服部が「僕もやりたいで
す！」と半分勢いで便乗してまとめたものです。
とりあえずがんばります！

今回の対談メンバーはこちら↓



ゲスト
川村 匡 Masashi Kawamura
アメリカ
Thomas Jefferson University
Hospital

インタビュアー
服部 圭真 Keishin Hattori
日本
三重大学医学部3回生

既読
9:55

心臓外科は医師によって行う手術、患者さんの種類に違いはあるのですか。例えば、この医師は小児専門の手術をしている、などです。



川村先生

大人の手術専門の医師は、小児の手術を経験したことがないという場合もあると思います。心臓外科の中で、大人と小児の住み分けはある気がします。最近では、大人の疾患の中でもさらに大動脈など専門が分かれているところも出てきていますが、そのあたりの違いは病院によって様々ですね。

9:58

既読
9:58

先生が選んだ理由はありますか。



川村先生

私ははじめ基礎研究でアメリカ留学を開始し、その間にUSMLEに合格して今の病院で働くことになりました。

9:59

既読
9:59

アメリカと日本の臨床の違いはありますか。



川村先生

新しい手術道具、機械の導入はアメリカの方が早いですが、手術自体の内容のギャップはあまりないです。もちろん、メリットもあります。例えば、アメリカは病院の数が少なく、症例が集約されているので、日本より多くの症例を経験できます。また、アメリカにはPAやCRNPなどの職種があり、その人達が患者さんの術後の管理をしてくれるので、施設によると思いますが、フェローは手術だけに集中できる点も特徴的です。全体的に、仕事のオンとオフがはっきりしています。

10:00

既読
10:00

アメリカでアテンディングになることは出来るのでしょうか。



川村先生

アメリカに残るといふ強い意志と技術、英語力があれば、日本人でも目指せないポジションではないと思います。個人的にはあまり興味がありませんでした。アメリカの生活スタイルや食事が自分に合っていたり、言語の壁を感じない人であれば、上手くいくんじゃないでしょうか。

10:01

既読
10:01

たしかに、アメリカという環境が自分に合っていないと、永住しようとは思わないですね。自分だったら日本食とお風呂が恋しくなって、すぐ日本に帰りたいかなるかも知れません。自分だけでなく家族も関わる場合もありますし、しっかり先を見据えて考えることが必要ですね。

既読
10:01

アメリカで苦勞していることは何ですか。



川村先生

やっぱり英語ですね。普段の会話で、彼らを取り上げている話題（ドラマや映画）についていけないことが多々あります。あと、仕事でのコミュニケーションのほかに、生活面で必要な手続きをする時が大変ですね。アパートの契約や車の購入もすべて英語ですから、自分から電話をするのもハードルが高かったです。しかも、アメリカではメールを送ってもまず返ってこないです。日本の方が、そのあたりの対応は丁寧ではるかに楽ですね。

10:02

既読
10:02

なるほど。英会話ならまだしも、電話だと内容を理解するだけでかなり大変そうですね。それだけ言語の壁は高いということですね。

今回の学び

①アメリカに残るならアテンディングの道もあり？

②米国は手術に集中できる環境！

③同僚の会話についていくのは大変…

川村先生、ありがとうございました！

